

## (1) 施策の外部評価の結果 【第2回】

基本政策	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
施策展開の方向	生涯にわたって健康に暮らせるまちをつくる
施策	1：自ら取り組む健康づくりの推進
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人たちが、健康づくりのための体力づくりや食生活改善に取り組むようになっていきます。</li> <li>・自ら進んで健康診査や検診を受診し、健康状態の確認ができています。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BMI達成率は当初値より若干増加している。食育の相談が増加傾向にあるとはいえ、体力づくりの推進を加味しなければ、横ばいで推移すると思われる。</li> <li>・がん検診の受診率は増加傾向であり、がん検診の受診率は上がっていることから、計画どおりの成果が得られていると考える。</li> <li>・がん検診等のさらなる受診率を向上させることが、施策が最大のポイントになると考える。</li> <li>・特定保健指導実施者数が目標値を大きく下回っている以外は、ほぼ目標値であり、目標値を大きく上回っているものもある。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導実施者数が目標値を大きく下回っている以外は、ほぼ目標値か、目標値を大きく上回っているものもある。</li> <li>・計画事業の構成は概ね妥当ではあるが、心の健康に配慮した事業も必要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査における満足度は平均値以上で、平成21年度調査より上昇しているため。しかし、もっと身近で手軽にできる健康づくりの方法が必要かと考える。</li> <li>・市民意識調査における満足度は平均値を上回っているが、自由意見では医療費助成やスポーツ施設、健康診断等についての要望がある。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命にポイントを置き、予防のため、20～40代への働きかけが重要との認識は的確であると考え。</li> <li>・高齢化社会を迎え、認知症問題が課題となってきたため、予防も含め対策が求められている。</li> <li>・健康寿命の延伸をするための健康づくりの参加、特に働き盛りの世代20～40代の働きかけが重要である。</li> <li>・市民の健康意識を高めるため、どのように考えていくか、またそのために何を提供していくかの観点に立った課題が立てられている。また、自殺者数の対応についても考えられている。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施している施策の市民への周知や徹底が必要であると考え。</li> <li>・健康寿命を延伸する施策と、医療費を抑制するための施策の継続実施が必要である。</li> <li>・当該施策は、より多くの市民の参加（受診）してもらうための工夫が見られる。</li> <li>・当該施策は概ね問題はないが、自殺者数の対策として体の健康とともに心の健康も合わせた施策の拡大が必要だと考える。</li> <li>・諸各種検診の受診率向上促進に向けて、ポイント制を検討を提案する。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第2回】

基本政策	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
施策展開の方向	生涯にわたって健康に暮らせるまちをつくる
施策	2：安心できる地域医療体制の充実
目標とする状態	●より高度な医療が受けられる医療施設や災害時の医療拠点及び充実した救急医療体制が市内に整備されており、必要なときに適切な医療を受けることができます。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	A 計画以上の成果が あがっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療体制については、充分整備されていると考える。</li> <li>市民意識調査における重要度、満足度いずれも平均値を大きく上回っている。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 計画以上の成果があ がっている	A 計画以上の成果があ がっている	A 計画以上の成果があ がっている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度医療の充足度は高いが、位置関係に問題の意見もある。</li> <li>在宅医療の充実が視点にない。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	A 反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意識調査における市民の満足度、重要度ともに37施策中一番高い。</li> <li>市民意識調査における市民の満足度、重要度が非常に高く市民意識はよく反映されていると言え る。</li> <li>在宅医に関する取組が施策にないとする。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 反映されている	A 反映されている	A 反映されている	A 反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一 部不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療体制の維持、充実に向けた課題が認識されていると考える。</li> <li>医療体制の充実の部分では、課題が捉えられていると考えるが、自由意見には医療従事者と市民との 信頼関係の構築も必要と思われる。医療提供体制はこのまま確保していただきたい。</li> <li>高度医療や災害時の安心以外にも、日常的な安心に関わるかかりつけ医、訪問診療、往診も必要で あると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一 部不足が見られる	B 課題の捉え方に一 部不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日診療、医療体制のさらなる強化、充実を望む。</li> <li>市民が質の高い医療を適切に受けられるように医療体制の維持、充実を図ることが必要である。</li> <li>高度医療体制を維持しつつも、個別の医療施設との連携を図りながら、市民のニーズと医療関係者 のニーズをバランスよく進めることが可能な施策の実施を望む。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第2回】

基本政策	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
施策展開の方向	みんなで支え合う福祉のまちをつくる
施策	③：多様な連携による地域福祉の推進
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で助け合い、支え合う仕組みが構築されており、多くの人や団体、事業者などが地域福祉活動に積極的に参加しています。</li> <li>●高齢者や障害者など、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できています。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の地域福祉やボランティア活動への意識が低いと考える。</li> <li>・施策の指標である「地域福祉に関心がある人の割合」、「ボランティア参加したことのある市民の割合」がともに目標達成が見込まれない。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	D 成果が見られない	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の支え合い事業については、組織化が進まなかったが、社会的孤立防止や成年後見制度については、一定の実績が上げられていると考える。</li> <li>・地域の支え合い、助け合い活動推進事業の成果が現れていないため、事業の見直しが必要である。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の地域福祉やボランティア活動への意識を高めるための施策をもっと行う必要がある。</li> <li>・満足度は平均値とであるが、重要度はまだ平均値よりも上回っているため、そのまま本施策を推進すべきである。</li> <li>・施策の重要度が平均値以上の割には満足度がやや低いと思われる。施策の内容の地域への周知が徹底されていないと思われる。</li> <li>・ボランティア活動や地域福祉に関心のある人が少ないと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉に関する理解の促進とボランティア活動が重要であり、成年後見制度の普及、啓発の必要を課題として捉えている。</li> <li>・市民の関心度の低さとそれに伴うボランティアの参加の割合の低さは、地域での支え合い助け合い組織の達成率につながっていると考える。そのため、それぞれの地域の実情に沿うような形での課題の捉えが必要である。</li> <li>・成年後見人制度についてはこのまま推進していただきたい。</li> <li>・市民の意識を啓発するだけでは、課題の解決には至らないと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が的確である	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	A 課題の捉え方が的確である	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会を通して、自助、共助、公助の意識啓発を行い、ボランティア人材育成不足への解消に努める必要がある。</li> <li>・地域福祉推進のための取組として、市民意識の啓発だけでなく、支え合いや見守りを進めていくことが重要である。</li> <li>・事業によっては工夫が必要などもあるが、地域の実情に沿った施策の継続が必要と考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	D 抜本的見直し	

(1) 施策の外部評価の結果 【第2回】

基本政策	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
施策展開の方向	みんなで支え合う福祉のまちをつくる
施策	4：高齢者の地域生活支援の充実
目標とする状態	●就労やボランティア活動、趣味を通じた自己啓発や仲間づくりなどの社会参加を活発に行う、元気な高齢者が増えています。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の指標である「高齢者の就業率」は、目標値の達成が見込まれない状況である。</li> <li>・施策を構成する「主な事業」であるシルバー人材センターへの就業者数の達成が見込まれない。</li> <li>・シルバー人材センターの利用を周知するとともに、就業率を上げるため、民間企業への協力を要請するべきである。</li> <li>・シルバー人材センターへの就業者数は減少してしまっているが、それ以外の事業では高い成果を上げている。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果が得られている	C 計画より遅れている
計画事業の構成に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策を構成する「主な事業」の評価が高く、取り組みが順調に行われている。</li> <li>・高齢者の生きがいを支援する事業が充実していると考え、自由意見の中には多様な提案や発案がある。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査における満足度は平均値を上回っている。</li> <li>・市民意識調査における満足度は平均値を上回っており、高齢者の地域生活支援に関する市民のニーズも充足されていると考える。</li> <li>・シルバー人材センターの就業者数に関しては減少しているが、市民意識調査における重要度も満足度も平均値を若干上回っている。また、高齢者生きがいづくり推進事業の成果が出ていると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 反映されている	A 反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が的確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターの充実が課題の捉え方としての的確である。</li> <li>・地域包括支援センターの機能の強化及び充実の検討が必要である。</li> <li>・高齢者の社会参加促進のため、地域包括支援センターの運営体制の充実が必要である。</li> <li>・人それぞれのニーズがあるとは思うが、シルバー人材センターの就業者数減少について、分析が必要と考える。</li> <li>・地域包括ケアシステムの中身は多様であるため、課題別に捉える必要がある。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	B 課題の捉え方に一部不足が見られる
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の就業率をまず目標値に近づけた上で、サービスの担い手として活動できるような仕組みづくりを進めていくこと及び地域包括支援センターの体制強化が必要である。</li> <li>・施策の一番の課題は生きがい作りと考える。自由意見でも高齢者支援施策に対する様々な意見が出ているため、参考にして施策を推進していただきたい。また、要介護にならないための施策の充実と地域包括のケアシステム（これは地域福祉と連動すると思う）の推進を希望する。</li> <li>・地域包括支援センター、介護予防の方向性はこの通りに進めていっていただきたいと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 拡大して実施	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大実施

(1) 施策の外部評価の結果 【第2回】

基本政策	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
施策展開の方向	みんなで支え合う福祉のまちをつくる
施策	5：障害者の地域生活支援の充実
目標とする状態	●障害者が、地域社会の中で自立した生活を送り、その適性や能力に応じた社会参加の機会を選択できています

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策指標「障害者の年間就労移行者数」及び「グループホーム、ケアホーム入居者数」は、目標値を達成している。</li> <li>市民意識調査における満足度、重要度ともに平均値以上であり、施策を構成する「主な事業」の評価結果も良いため、成果が得られていると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	a 適切な構成である	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策を構成する「主な事業」は目標を概ね達成しており、評価結果も高い。</li> <li>相談支援事業も就労支援事業も目標を達成しており、重症心身障害児者日中一時利用支援事業も有効性、効率性、今後の方向性も高い評価である。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	A 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意識調査における、満足度が平均値を上回り、市民のニーズも充足されていると考える。</li> <li>市民意識調査における満足度、重要度は平均値以上だが、まだ充分とはいえない状況もあると考える。</li> <li>自由意見では、障害を持つ子の親の不安や、自立支援への要望なども出ており、様々な人への対応を考えていかなければならないと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方が的確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労に通じた支援が重要な課題であると認識している。</li> <li>相談支援事業、障害者雇用は、社会参加を推進する上で必要である。</li> <li>相談支援事業、就労支援事業ともに課題が的確に捉えられていると考える。特に障害者に関わる職員や相談員、ボランティアスタッフなどの人材育成が必要であると考え。</li> <li>障害者の就労を支援するには、障害者の働く場所が必要になってくると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	B 課題の捉え方に一部不足が見られる
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者雇用率が未達成の企業に対して、雇用促進に向けた取り組みが必要である。</li> <li>障害者の社会参加を促進するべきである。</li> <li>障害者を持った人々が安心して住めるまちづくりに向けた本施策の方向性は適切である。個別に事業はよく考えられており評価できるが、地域の人たちとの理解を深めて共に生活できる取組も必要かと考える。</li> <li>障害者の移動手段の確保が必要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大実施